

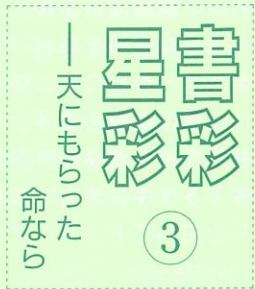
図書館だより

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

吉田東洋が、武市半平太が、
ジョン万次郎が、勝海舟が

竜馬をはぐくんだ

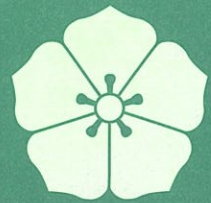
夢山河



1867年11月15日。京の初冬。
 その日、竜馬は33回目の誕生日を迎えていた。
 風邪気味で、奥庭の隠れ家から2階の座敷に出ていたのは、
 「まさか誕生日が命日とはなるまい」。
 との油断からだったのか。
 相棒の藤吉はボディガード。
 ほかに3人の客。
 土佐藩士、岡本健三郎。書店の小僧、峰吉。
 そして、陸援隊の中岡慎太郎。
 「しゃもが食いたい」。
 竜馬の希望で、小僧の峰吉が使いに立ち、岡本も席を立った。
 事件が起こったのはそのすぐあとである。
 九時ごろ。来客を告げられて階下に姿を消した藤吉のものすごい音がすると間もなく、疾風のごとく、奥座敷の竜馬めがけて黒い影が迫った。
 「こなくそ！」暗殺者の声と共に来た一刀を辛くもかわし、二の刀を握った刀のさやごと受けたものの、三の刀が竜馬の額を斬った。脳裡がみるみる暗くなって行く。
 「おふくろーっ！」。
 そこに竜馬は永遠の母の顔を見た。
 竜馬絶命。それは運命の「油断」だった。

この国をカオスに導いた運命の油断

竜馬の紋



NHK大河ドラマ『秀吉』の本能寺の変で、信長（渡哲也）は「（光秀の）桔梗の紋は美しいのう」と言う場面があった。
 竜馬の紋も「桔梗」の紋だった。
 一説では明智家につながっているとされる。明智の紋はさらに土岐源氏に由来する。

目次 新しい建築の動向(串山 繁)／英文にトライ：子供の本を通して異文化理解(ウィリー・ジョーンズ)／秀吉と光秀(斉藤和夫)／アラビア紀行①(大江敏美)

新しい構造形式の住宅：

木造ツーバイフォー住宅（2×4住宅）をご存じでしょうか？ 2 inch×4 inch の断面寸法の木材を基本骨組材料として、屋根トラスや枠組を作り、枠組の両面あるいは片面に合板を貼付けて壁、床などを構成する住宅です。

この木材を使用した基本の骨組のみを、木材と同じ外形寸法で軽量形鋼と呼ばれる、板厚が非常に薄くて軽い（板厚0.8 mm～1.6 mm）溶融亜鉛めっき鋼板で置き換え、その他は2×4住宅と同じように合板を貼付けて作られた住宅（図参照）をスチールハウスと呼んでいます。この軽量形鋼は、板厚が極めて薄いことから、木材と比較して軽量で持ち運びが容易であり、電動鋸で簡単に切断できます。また、軽量形鋼と合板などは電動工具を用いてドリリングタッピンねじと呼ばれるビス

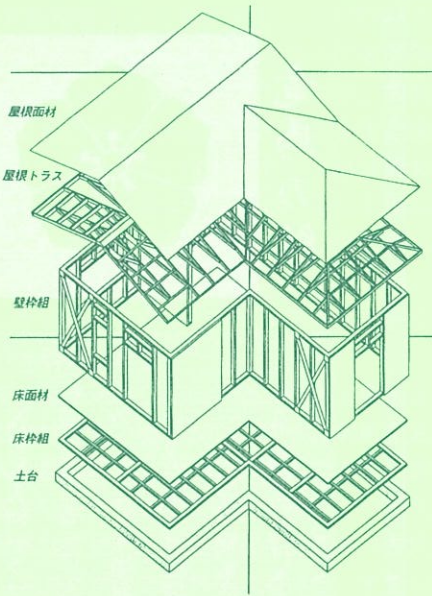
で接合されます。このようなことから、北米では、2×4住宅の大工さんが木材と同じ感覚で用いています。

スチールハウスは、北米、オーストラリアで先行して普及しつつあります。その背景としては、例えばアメリカでは、良質な木材が次第に枯渇し、1992年国有林伐採禁止令が出されてから木材価格がスチールの価格よりも高くなってしまったことが挙げられます。さらに、木材資源の保護、環境保全やリサイクル材の関心の高まりもスチールハウスが普及する追い風となっています。

あなたは、あなたの住宅を建てるのに、“森の中の木を40本使いますか？”、それとも“自動車のスクラップを使いますか？”と問いかけると、アメリカ人の多くは後者を選択するそうです。

我が国では、従来から住宅においてもスチールを構造材の選択肢のひとつとして使用していますが、現行の建築基準法では形鋼の板厚は主要部材で最低2.3 mm以上と規定されており、ビスどめによる接合も認められていません。このため平成10年を目標にスチールハウスが建てられるような条項を建築基準法に盛り込むため、様々な構造実験、耐久性試験などの研究が昨年から進められています。

現在、日本国内には既に輸入住宅も含めて、国内用の暫定設計規準で設計されたスチールハウス



スチールハウスの構造

新着図書 — 経済・法律関係

コンピュータ・エコノミクス／深谷庄一著 SASによるデータ解析入門／石川伸一〔ほか〕著 SAN統計見方・使い方 ゼミナール／白川一郎、井野靖久著 FORTRAN 77プログラミング／河崎辰夫〔ほか〕著 証券投資の理論・方法・戦略／水野宣広著 証券投資論／日本証券アナリスト協会編 新ファンド・マネジャー 相場を動かす8人の男たち／ジョン・トレイン著 EC通貨・金融統合と資本市場 ゼミナール／中川辰洋著 国際金融基礎と現実 ゼミナール／河合正弘〔ほか〕著 金融のしくみ 入門の入門／及能正男著 銀行—不良債権からの脱却／デービッド・アトキンソン著 ドイツ銀行 欧州最強の金融帝国／相沢幸悦著 世界銀行 開発金融と環境・人権問題／鷺見一夫著 為替レートの謎を解く／ポール・クルーグマン著 金融理論と金融政策の新展開／重原久美春著 金融理論と制度改革／貝塚啓明、池尾和人編 金融論講義／渡辺佐平著 現代金融論／岩田一政著 金融大国日本の凋落／太田康夫著 金融論／柴沼〔ほか〕著 国際収支不均衡下の金融政策／植田和男著

スチールハウスの動向

工学部建築学科

串山 繁

(写真参照)が建てられつつあります。これは、60mを越える超高層建物や免震建物と同様に個別評定を受けて認可されたものです。

スチールハウスが我が国においても普及するためには、

ユーザーには、

- ・所要の品質を確保する技術が既に確立されている木造住宅に対し、同等以上の品質を確保した価格の安い住宅

を提供すること

また、作り手側の大工さんには、

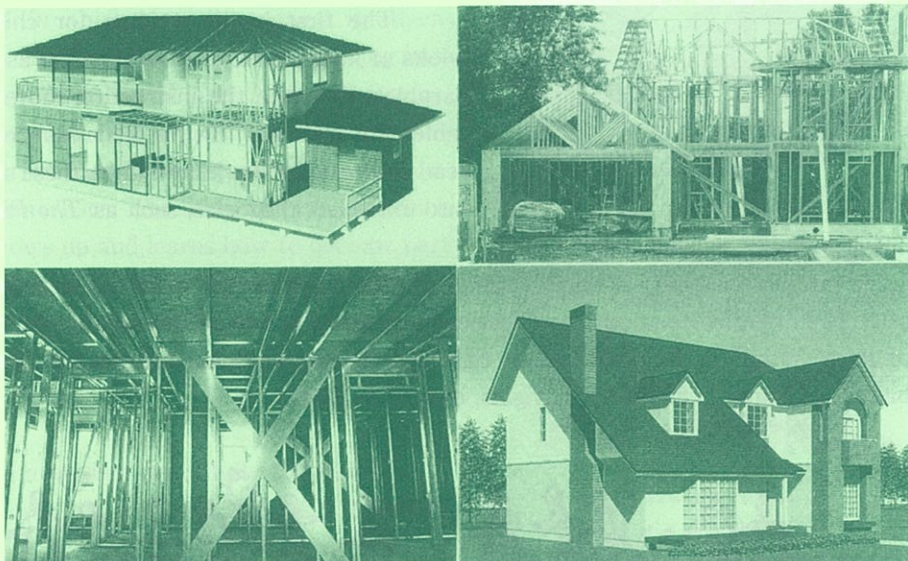
- ・新しい技術を修得するための教育に対する支援
- ・顧客のニーズに応じて、大工さんが木造かスチールハウスかの選択を気軽にできるようなスチールハウスの設計・施工の仕様を提示すること

などが是非とも必

要になってくるでしょう。

しかし、どんなにすばらしい基準や仕様を作っても、力学的にバランスのよい設計や十分な設計監理、設計図通りの良心的な施工がなされない限り、健全な建物は実現しません。昨年1月の阪神・淡路大震災では既存不適格な建物（現行の建築基準法施行以前に建てられて、現行の要求を満足していない古い建物）以外にも、多くの建物が従来から繰り返し指摘されている要因（耐震壁の偏在や壁量の不足、筋かいなどの接合部の補強金物の不備など）で大きな損傷を受けています。どの種の構造形態の建物であっても、施工技術の実態を踏まえた適切な設計と品質管理が肝要であることを記して、スチールハウスの紹介の締めくくりとさせていただきます。

(くしやま しげる 工学部教授)



スチールハウスの実例

経済・法律関係

新着図書

個人貯蓄とライフサイクル／橘木俊詔、下野恵子著 貿易黒字の誤解 日本経済のどこが問題か／伊藤元重、通産省通商産業研究所編 日本経済・入門／香西泰、竹中平蔵著 (数字でみる)日本の100年 日本国勢図会長期統計版／矢野恒太記念会編 バブルの経済学／野口悠紀雄著 プロ野球の経済学／樋口美雄編著 貨幣の経済学／デイヴィッド・レイドラー著 金融政策 中央銀行の視点と選択／翁邦雄著 アナリストのための金融論 ゼミナール／辰巳憲一著 ウォール街のランダム・ウォーク／バートン・マルキール著 (新)国際金融論／吉野昌甫編 日本の医療経済／鶴田忠彦編 異説・日本経済 part2／日本経済新聞社編 日本経済大競争への挑戦／日本経済新聞社編 マクロから見た日本経済／吉田和男著 両から円へ 幕末・明治前期貨幣問題研究／山本有造著 日本の物価はなぜ高いのか／伊藤元重、伊藤研究室著 提言新・日本型経済システム／本間正明著 現代日本経済の研究／竜昇吉著 日本経済矛盾と再生／島田晴雄著 第三の開国を目指す日本経済／新保生二著

Books for Children in English

子供の本を通して異文化理解を

If we wish to understand strangers, we should find out what they read as children.



If we wish to understand another culture, one valuable resource is the body of stories, poems and songs told to and read by children: or, these days, watched by them on television. Many of the books written in English or translated into English from other languages which have been read to, or by, children on either side of the Atlantic have a perennial value and interest, although on television they are often sentimentalised and perverted: the books are always better.

The first books written for children were mostly books of instruction, often dressed up as fiction, in fables or parables, to make the instruction more palatable: Aesop's fables, for instance. In the Renaissance, well-born children read courtesy books. Sometimes, these stories are developed into extended allegories, such as *The Pilgrim's Progress*.

Great collections of tales, whether of folk origin or not, while not intended for children have often been read by them; these collections may be of native British origin, like the mythical stories of King Arthur or Robin Hood, or they may be translations, such as the tales collected by the brothers Grimm, *The Arabian Nights*, even *The Bible*.



新着図書

—— 経済・法律関係

アフリカ資本主義の形成/ジョン・アイリフ著 中華帝国の構造と世界経済/黒田明伸著 財政学/井堀利宏著 現代経済と財政/土生芳人著 日本の財政システム 制度設計の構想/貝塚啓明、金本良嗣編 西欧世界の勃興 新しい経済史の試み/D.C. ノース、R.P. トマス著 経済の文明史/カール・ポランニー著 食生活の社会経済史/W. アーベル著 貧者の社会経済史/ヴォルフラム・フィッシャー著 産業革命のなかの綿工業/S.D. チャップマン著 規制緩和と民営化/OECD 編 ゆとり社会の創造 新資本論入門 12 講/基礎経済科学研究所編 地域分析入門/大友篤編 消費者重視の経済学/伊藤隆敏著 現代経済政策入門/長谷川啓之編著 消費税はやはりいらぬ/八田達夫著 土地税制改革 いま、なぜ地価税か/石弘光著 現代交通論/池田博行、松尾光芳編著 交通政策の経済学/奥野正寛[ほか]編 規制緩和の経済学/加藤雅編著 土地・住宅の経済学/原田泰、井上裕行著 現代の地方財政/和田八東、野呂昭朗編 現代の地方自治 新しい課題と行政能力/牛嶋正著

During the last two centuries, other genres have grown out of these older forms, or have been re-invented:

animal stories, in which animals behave anthropomorphically (that is, like human beings) as well as behaving like themselves (*The Tales of Beatrix Potter*, *The Wind in the Willows*, *Watership Down*);

adventure stories, in which a boy (usually) takes part in the activities of a man's world (a hundred years ago this would have been the British Empire), where he triumphs by his brains rather than his brawn (*Kim*);

school stories, for both boys and girls, set almost exclusively in private schools, in which communal loyalty is rewarded and solitary selfishness is punished (*Tom Brown's Schooldays*);

detective stories, in which a group of children outwits the criminals (and generally the police as well);

fantasies, in which children enter a world different from the one which they normally inhabit, which is both like and unlike their own world, where they meet with strange adventures (*Alice in Wonderland*), or confront characters who are of a different species or are immortal (*The Crock of Gold*, *The Lord of the Rings*);

family sagas, in which a family engages in adventures, but where the child or children play the leading part or parts: the stories of E. Nesbit and Arthur Ransome, *Little Women*, *What Katy Did*, even *Winnie-the-Pooh* (the toy animals are Christopher Robin's family);

bildungsromane (Ger: education novels), in which an isolated child grows up and learns how to become part of a larger community (*The Secret Garden*).

Today, many stories centre on children facing and coming to terms with the problems of **contemporary life**, especially in cities.

These stories are often beautifully illustrated.

(ウィリアム J. ジョーンズ 人文学部講師)



From *Wind in the Willows* (1931).

Willie Jones

経済・法律関係 — 新着図書

貿易黒字・赤字の経済学／小宮隆太郎著 ゼミナール国際経済入門／伊藤元重著 経済政策原理／野尻敏著 市場機構と経済政策／吉沢昌恭著 現代日本地方財政論／遠藤三郎編著 地方財政論／斉藤慎[ほか]著 財政学講義／林健久著 ヨーロッパ統合の脱神話化／佐々木隆生、中村研一編著 フランスの経済 転機に立つ混合経済体制／原輝史編 ドイツの経済 社会的市場経済の構造／大西健夫編 EC 統合・欧州連合入門／藤原豊司、田中俊郎著 統合 EC のすべて ポイント早わかり／石川薫編著 現代アメリカ経済論／春田素夫編著 概説アメリカ経済／平井規之[ほか]著 カナダ経済史／リチャード・ポムフレット著 現代のアメリカ経済／石崎昭彦[ほか]著 目覚める大国ブラジル／鈴木孝憲著 中国開放政策と日本企業／関満博著 現代中国の变革 社会主義システムの形成と変容／上原一慶編 最後の巨大市場・中国 人治国家のメカニズムとビジネスの鍵／波頭亮著 中国経済の国際化／馬成三著 中国経済が危ない／中嶋嶺雄著 分裂する欧州経済 EU 崩壊の構造／浜矩子著



秀吉と光秀

斎藤和夫

今、NHKの日曜大河ドラマは堺屋太一原作の「秀吉」が放映されています。このドラマの人気は相当なもので視聴率はこの種の戦国もののうちでも上位を占めるほどとか。それを物語るものにこの春から国内巡回して各地盛況の「秀吉展」。

夏には道立近代美術館で開催された際にも期間を通じて大入り満員でしたし、本学図書館所蔵の古文書展シリーズ No.23「秀吉」展にも関心の高さを垣間見ることができました。

「本能寺の変」といえば、天下の猛将織田信長が、家臣明智光秀のために殺された、いわば逆臣の見本のように言われている有名な歴史上の物語りです。このため、光秀という人は、今日にいたるまで余りよく言われてはいません。

しかし、よく考えてみますと光秀が世にいうほど悪人であったようにはどうも思えません。

秀吉も光秀も、ともに信長の家臣として忠勤をはげみ、いずれも五十数万石の大名に取り立てられていました。これだけを見れば、どちらもなかなかの人物で、甲乙の差はつけられません。それではどうして、この二人の間に大きな運命のひらきができたのでしょうか。

そこで考えられることは、今様の「人間関係」

で、相手をどのように見て、どのように接するかという、人のみかた、考えかた、接し方の違いではなかったか、と思います。

秀吉という人は、非常に豪放闊達な人物であったと伝えられています。ですから、信長に仕えていても、その欠点をあまり気にしないで、つねに主人信長の長所を見、その長所に素直に共鳴し、「ああ、親方さまは偉いもんだ」と、心から感服できたものと思います。こんな秀吉の心が信長に伝わらないはずはありません。それこそ以心伝心で「このオトコ（秀吉）はオレ（信長）をよく知っていてくれる」と感じたことでしょう。

これに対して光秀はどんな性格の持ち主であったのでしょうか。かれは、文武に長じていたのですが、一面、律儀で正義感が強く、いわば融通のきかないという点もあったようです。

ですから、信長の長所は認めていても彼の今後のことを考えて、「親方様は、正に天下をとらんとするお方だから、今までは力と策を用いて、ここまでやってこられたが、これからは徳をもってことを処してもらいたい」というような意味のことを、ちょいちょい進言していたようです。このような態度を喜ぶ信長であれば話は別ですが、しか

新着図書

—— 人文関係

近世日本文法研究史論／建部一男著 万葉集歌枕の解疑／大井重二郎著 近代の短歌／山根巴、大久保晴雄編 現代日本の文学／〈現代日本の文学〉編集部編 近代詩歌俳句史／松井利彦編 校注樋口一葉／中野博雄校注 無名抄全解／高橋和彦著 芥川と太宰の文学／千田実編著 雑誌にみる近代日本文学／喜多川恒男、青木稔弥編 近代日本の文学／〈近代日本の文学〉編集部編 明治の文芸／小野隆編 文科系学生のための文献調査ガイド／池田祥子著 文学概論／林松定孝著 国語学概説／春日正三〔ほか〕著 展望近代の評論／瀬沼茂樹〔ほか〕編 近代文学ヒロインの系譜／高田知波〔ほか〕編著 交差する軌跡注釈・昭和の短篇小説／江頭太助〔ほか〕編 哲学的人間学／ミヒヤエル・ラントマン著 世界史の想像力—文明の歴史人類学をめざして—／湯浅越男著 哲学ってなに？ 「あなたの世界」を見つめ直す入門書／飛岡健著 全体主義の呪い 東西ヨーロッパの最前線に見る／西尾幹二著 近代文学の潮流 自然主義と反自然主義／宮城達郎、坂上博一著

し、信長という人は、勇猛大胆な武将で、光秀のそのような態度を、なんとなくこざかしく思うような性格を持っていたに違いありません。そこに問題があったのでしょうか。

信長が光秀の望むような良識の持ち主であったならば、とてもあれだけの偉業をはたし後世に名を残すような人にはならなかったのではないのでしょうか。つまり、多少は良識を欠いても、彼の天性の豪毅さが、あの乱世に天下の英雄たらしめたともいえそうです。

このように、信長には信長なりの長所と短所があったわけですが、秀吉は、その長所をみて感服共鳴し、協力を惜しまなかったのに対し、光秀は協力しつつも、その短所が目について、心中悲しみに憂っていました。

言いかえると、秀吉は信長の長所を見てさらにこれを助長し、信長の権勢更に大ならしめようとしたのに対し、光秀は、信長の長所を認めながらも、信長の天下盤石のために短所を正しめようという方向に強く動いた人ではなかったのでしょうか。

ここに二人の運命のわかれめを見るような気がします。

これには、二つの教訓が含まれているように思います。その一つは「相手の短所にとらわれなくて、その長所を見よ」ということであり、もうひとつは「人を見て法を説け」ということです。人間誰でも長所もあれば短所もあります。短所のなかには、なおるものもあれば、なおらないものも

あるでしょう。

治らぬ短所を、いくら指摘してみてもはじまりません。つまり、長所から短所を差し引いてプラスが残れば、[それはそれで結構ではないか]、ぐらいの大らかさがないと、物事は成功しないようにも思います。

それを更に上等なものにしようというのは欲が深すぎます。光秀は善良ではありましたが、その意味で欲が深かったのかも知れません。

こんな例は、今日でも随所に見られます。だからこそ、人の長所を見るというその見かた、その考え方が大切だ、という所以でもありましょう。

光秀のように文武両道に長じていた善人が必ずしも成功するとは限らないところに、人生の味わいひとしおならぬものがあるように思います。

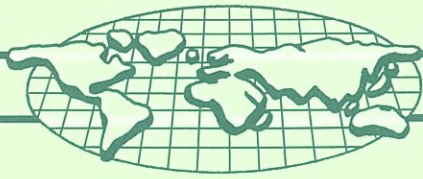
(さいとう・かずお 大学院事務部長)



人文関係

新着図書

情報時代は宗教を変えるか—伝統宗教からオウム真理教まで—池上良正、中牧弘允編 実存主義とは何か/J.P.サルトル著 哲学辞典/森宏一編 「私」の心はどこへ行くのか/竹田青嗣、町沢静夫著 知性の進化 脳と心の潜在能力/ジョゼフ.C.ピアス著 中世文学思潮/佐々木克衛[ほか]編 争点日本近代文学史/小林修、玉村周編 恋愛の近代文学/渥美孝子[ほか]編 近代文学読本/石井和夫[ほか]編 新編日本現代詩/山内祥史編 大学で読む現代の文学/曾根博義[ほか]編 幼児言語助成の在り方/飛田文雄著 徒然草注釈・論考/小林智昭、菊地良一、武石彰夫編 学生のための言語表現法/伊中悦子、高崎みどり編 資料国語科教育法/鳩貝久延、山根巴編 中世歌論の世界/佐々木克衛著 日本語学論説資料 30-1~30-5/論説資料調査会 ヘッセからの手紙/ヘルマン・ヘッセ著 ダライ・ラマの密教入門/ダライ・ラマ十四世テンジン・ギャムツォ著 ものの見方・考え方/飛岡健著 日本古典文学史/乾安代[ほか]著 近代文学年表/年表の会編集

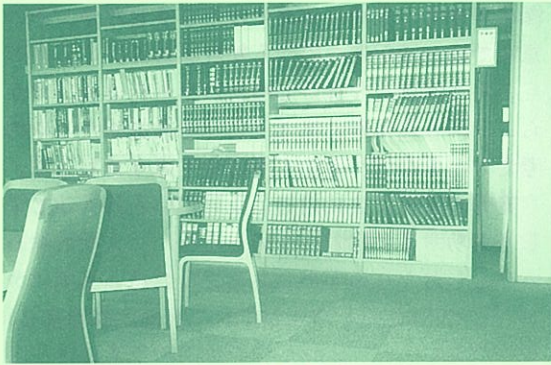


閲覧室だより

写真① 2F開架書庫の棚1には、万有百科大事典、ブリタニカ、世界大百科事典、ビクトリア現代新百科等の百科事典が揃っています。

写真② 2Fブラウジング・コーナーは、専門誌の他にも、ニュートン、太陽、スウィング・ジャーナル等の一般誌も置いています。

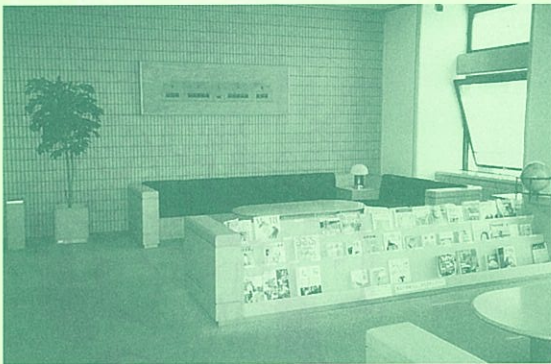
写真③ 写真の左側は著者目録、右側は分類目録のコーナーになっています。



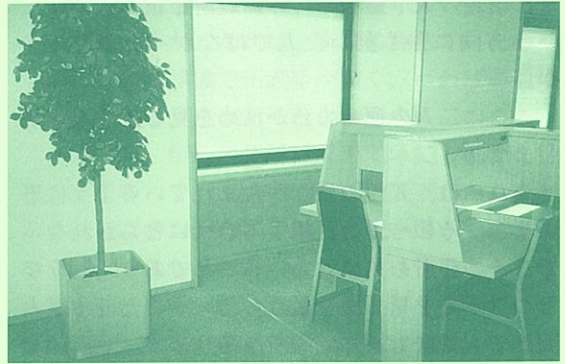
① 2F 開架書庫



③ 3F 洋書目録コーナー



② 2F ブラウジング・コーナー



3F 閲覧室

新着図書 — 工学関係

World Wide Web イエローページ 1995年版/アンドリュウ・バズィ[ほか]著 (イラストで読む)インターネット入門/ジョシュア・エディンクス著 現代建築家ビデオシリーズ 7-11/M.ブラックウッド監督 imidas(イミダス)—情報・知識—'96/集英社 朝日現代用語 知恵蔵 1996/朝日新聞社 大辞林/松村明、三省堂編修所編 地域施設の計画 21世紀に向けた生活環境の創造/日本建築学会編 セメント年鑑 48(平成8年版)/セメント新聞社編集部編 化学工業年鑑 1996年版/化学工業日報社 京都の三大祭(角川選書 268)/所功著 長安 絢爛たる唐の都(角川選書 269)/京都文化博物館編 茶道と十字架(角川選書 270)/増淵宗一著 科学技術要覧 平成8年版/科学技術庁科学技術政策局編 科学技術白書 平成8年版/科学技術庁編 防災白書 平成8年版/国土庁編 交通安全白書 平成8年版/総務庁編 労働白書 平成8年版/労働省編 「無意識の意思」の国アメリカ—なぜ大国は甦るのか/薬師寺泰蔵著 上水試験方法 1993年版/厚生省生活衛生局水道環境部監修

『あっと驚く』'96夏忘れの記

■寅さん逝く

「笑わせて やがて哀しき 道化かな」

この夏一番の「あっと驚き」はやはりあのお祭り男、車寅次郎氏の逝去だったろう。

10年以上も昔、「寅さん」はいつ終わるんでしょうか」と記者に問われて、「世間様がね、そのうちにちゃんとケリをつけてくれるもんですよ。

井上ひさし氏によると「見ごとなかご抜け」と言って脱帽した。自からケリとつけたと言うわけだろう。

「死に顔を人様に見せるな。骨にしてからお見せしろ」。

その言葉はすごみさえある。背筋が寒くさえなる。「寅さん」を演じた役者のセリフはまだあった。「ドロボウでもなんでもいい。寅を演じているときは本当の人間と言われたい」。

「芸」に生きた一徹の美学だった。

相次ぐように、著名人の死。

政治学者、丸山真男氏。女優の沢村貞子氏。彼らの死は一芸に秀でた人の生への卓越がある。

■ O 157

この夏の次の「あっと驚き」はO 157だったろう。サリン、狂牛病と来て、3度目はO 157。

厚生省は「カイワレ大根」が犯人と決めつけたが真意は別にあるらしい。つい最近、厚生大臣は「学校給食は見直しが必要」と発言したとか。

エイズ問題で逮捕者が出た「ミドリ十字」は元

「731部隊」の生き残りが創業したという。そこに厚生省からの天下り。

■進歩的学者の大転換

「あっと驚く」ものに「進歩的学者」の転向がある。地方国立大学から東大の教授になって、ようやく本領発揮と思われたら、

「従軍慰安婦を教科書から削除する運動を提起」と宣言。知者^{ひょう}豹変す。

同氏が編者の『教科書が教えない歴史』が今、ベストセラーに顔を出し、自民党のタカ派議員からもアプローチある由。

■もう一つのオリンピック物語

「あっと驚く」ものに、オリンピック。

それはもう一つの「オリンピック物語」なのだ

1912年4月15日深夜、氷山に衝突して沈没した「タイタニック号」は実は「全く同型」で保険めあての事故を起こした「オリンピック号」だった。その持主は米の富豪、モーガン氏。

オリンピックのあとは、米大統領のイラク爆撃。オリンピックは戦争の隠れミノだったのか。

■甲子園

「あっと驚く」名場面。

松山商業右翼手のあの長い滞空時間のホーム大返球はひと夏の清涼剤だった。

工学関係

新着図書

救済の思想 叡尊教団と鎌倉新仏教／松尾剛次著 化学総説 季刊 28(1996)／日本化学会編 イエスとは誰か(NHK ブックス 763)／高尾利数著 騎馬民族は来なかった(NHK ブックス 658)／佐原真著 寄生虫の世界(NHK ブックス 764)／鈴木了司著 日本河川水質年鑑 1993／日本河川協会編 北海道教育関係職員録 1996年度版／北海道教職員組合編 縄文学への道(NHK ブックス 769)／小山修三著 名勝唐詩選 上(NHK ブックス 770)／高木重俊、石嘉福著 北方から来た交易民 絹と毛皮とサンタン人(NHK ブックス 772)／佐々木史郎著 観光白書 平成8年版／総理府編 土地白書 平成8年版／国土庁編 河川六法 平成8年版／大成出版社 機械統計年報 平成7年／通商産業大臣官房調査統計部編 化学工業統計年報 平成7年／通商産業大臣官房調査統計部編 フグはなぜ毒をもつのか 海洋生物の不思議(NHK ブックス 768)／野口玉雄著 地形と地質(さっぽろ文庫 77)／札幌市教育委員会文化資料室編 日本列島大地図館 テクノアトラス 新訂版／小学館

巨人と巨人をつないだ 関係代名詞的人間

— 兆民—ジョン・万 黒潮対話

中江兆民

ときに、あなたは竜馬を見たんですか。私は長崎で、彼の書生のような役でしたから。

ジョン・万次郎

いや。あいにく私は見ませんでした。会っていません。

私が出会ったのは、吉田東洋派の人たち、後藤象二郎や岩崎弥太郎。そして、長崎では、トマス・グラヴァー。

中江兆民

でも、竜馬のヴィジョンの中に、あなたの米国滞在中の知見がうかがえるのですが。

ジョン・万次郎

やはり東洋派にいた画家、河田小竜が私の体験を冊子にしていましたから、それを借りて読むことはあったでしょう。

中江兆民

その吉田東洋が郷土の武市半平太派に暗殺される。今度は反対に、後藤象二郎がその恨みをはらす。血で血を洗う暗闘が同じ土佐の中であったのは惜しいですね。

竜馬は武市派でしたが見切りをつけて脱藩した。

ジョン・万次郎

若い30代の命ですよ。彼らが生きていれば竜馬の活躍はもっと開かれていたでしょう。

聖生活時代

四国知求紀行③

中江兆民

でも、あなたは幸運だった。

大学の教授にもなり、咸臨丸では勝海舟ともども2度目のアメリカへ。

大黒屋光太夫の時代とは違っていた。

ジョン・万次郎

うーん。でもないでしょう。

やはり身分の差は歴然でしたよ。

あまり活躍の場がなかった。

中江兆民

リンカーンの時代。あなたはフォスターの歌を聴かれたとか。

ジョン・万次郎

ええ。

I hear the gentle voices calling old Black Joe. とか。民謡風のものでしたね。

中江兆民

英語も仏語も、外国語には分詞や関係代名詞があって名句をつくる。日本には「形」としてはないが「実体」はある。芭蕉の句のように。

ジョン・万次郎

竜馬はおそらく、その関係代名詞のように文と文を結びつける。そんな役まわりではなかったでしょうか。リンカーンのように誠実だったと思います。

新着図書 — 教養・一般

近代日本の軌跡 2 自由民権と明治憲法/江村栄一編 戦争の時代 50年目の記憶 上・下/朝日新聞名古屋社会部著 グラフ統計のはなし/石村貞夫著 小論文・作文の書き方/井出重昭著 円とドル 流説の攻防 国際通貨の政治経済学/高橋文利著 (新・)マーケティング事典/有田恭助著 挑戦するアジア/日本経済新聞社編 戦後日本の宰相たち/渡辺昭夫編 教養の日本史/竹内誠[ほか]編 大学で勉強する方法/A.W. コーンハウザー著 判例クレジット法/長尾治助著 リーガルマインド手形法・小切手法/弥永真生著 世界民族問題事典/松原正毅、NIRA 編 異境の発見/樺山紘一著 いま、なぜ民族か/蓮実重彦、山内昌之編 文明の衝突か、共存か/蓮実重彦、山内昌之編 これから教師になる人のための算数と数学/柴田録治、浦田敏夫著 FBI心理分析官凶悪犯罪捜査マニュアル 上・下/ロバート・K・レスラー[ほか]著 エッセンシャル法学/大谷実編著 特許の文明史/守誠著 パレスチナとは何か/エドワード・W. サイド著 (入門)労働法/中山和久[ほか]著



自由の山間より出た 広葉樹型人間

小説の中の人間を、つねに2つのタイプに分けることを好んだのはあの文豪トルストイである。

「コム・イル・フォ *comme il faut*」の人間は官僚的で、そつがなく、上品な人達である。

「非コム・イル・フォ *non comme il faut*」の人間は世渡りは下手だがいつも心にロマンがある。それこそが、トルストイの主人公たちだった。

『戦争と平和』のピエール。『アンナ・カレーニナ』のレーヴィン。

それは、別の表現をすれば、

「広葉樹型」の人間ということになるのではないか。

春の芽ぶき。夏の緑陰。秋の果実。冬の落葉と四季彩に富んでいる。

坂本竜馬。

彼は、「広葉樹型」人間そのものであった。

土佐の上士、後藤象二郎に問われて、彼が企てた「船中八策」は変革期の日本のヴィジョンをはるか遠く見通していた。

「大政奉還」のアイディアは彼のものであり、象二郎はそのまま山内容堂に進言して、徳川喜慶に受け入れられたにすぎない。

来たるべき政府の要職には彼の名は無かった。そのリストは彼が西郷に示したものである。

なぜ竜馬は暗殺されたのか？

たしかに、薩長連合から「大政奉還」のシナリオを書いた竜馬は倒幕派からは、いぶかしく思わ

れたろう。

薩摩説の背景もそこにある。

後藤象二郎説も一理はある。

司馬遼太郎氏が『竜馬がゆく』で下した結論は新選組説だが、これは今日では旗色が悪い。(NHK『歴史発見』①⑥)

それとも、「幕府の真の叛乱者は私」といいながら、徳川慶喜の助命を企図したあのイギリス人、トマス・グラヴァーだったのか。

一人一説の中で、『竜馬慕情』の加野厚志氏は長州説。黒幕は山県有朋で、実行犯は神代直人と言う。のちに暗殺された大村益次郎の時の手口と似ていたからである。

いずれにしても竜馬は暗殺された。

彼の死は、その後の日本の「かたち」をカオスに導いたとも言える。明治憲法が出来たのはそれから23年もあとのことである。とくに、竜馬はそのヴィジョンを持っていたのだが。

今日、竜馬のヴィジョンを受けつぐ政治家がいるとすれば、土佐の血を引く上田耕一郎、不破哲三兄弟だけだろう。我々はそこに救いを見出す。

元首相、浜口雄幸そして吉田茂。自由民権の板垣退助。中江兆民。その弟子の幸徳秋水。植物学者牧野富太郎。精神療法の森田正馬。漱石山脈の寺田寅彦。独文学者でロマン・ロラン研究の片山敏彦。次回は子規の国。愛媛県。

教養・一般

新着図書

アウシュヴィッツ ホロコーストの真実／野村路子編 アメリカはなぜ日本に原爆を投下したのか／ロナルド・タカキ著 行政法／田中館照橋編 刑法教科書 総論 上／伊藤寧[ほか]著 覇者の一手／河口俊彦著 難解／難読蘊蓄字典／小学館国語辞典編集部編 (デイリーコンサイズ)カタカナ語辞典／三省堂編修所編 (デイリーコンサイズ)英和・カタカナ語辞典／三省堂編修所編 ワープロのための漢字使い分け辞典／片山朝雄編 (年表で見る)モノの歴史事典 上、下／ゆまに書房 難読漢字辞典／三省堂編修所編 日本古代史研究事典／阿部猛[ほか]編 ローマ字和西辞典／エドゥアルド・ロベス・エレーロ著 伊勢 恋に生き歌に生き／片桐洋一著 紀貫之 宮廷歌人／村瀬敏夫著 生命倫理を考える一終りのない8編の物語 1-8／大井玄[ほか]監修 対談 21世紀 16-30／中京テレビ 大平洋の世紀一映像ライブラリー 1-10(全10巻)／F.B.ギブニー原作 猪口孝監修 都道府県別資産家地主総覧北海道編／渋谷隆一編 日本女性肖像大事典／永原和子監修

気位の高いシバの女王国の末裔たち

大江 敏 美

聖書マタイによる副音書(12-42)に『審判の日に南の女王がお前たちを罪に定めるために来る』とある。南とはイエメンで、この文はシバの女王のことを言っている。約3千年前から千数百年間繁栄を続けた王国の首都マーリブには、当時の「太陽の神殿」、「月の神殿」、幅1kmの巨大ダム(灌漑面積1,600ha)の遺跡が残っている。

シバの女王を自然崇拝者から、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教共通の唯一神崇拝者に改宗させたのは、ユダヤのソロモン王であった。それは旧・新約聖書とコーラン(正しくはアル・クルアーン)に記載されるほど三教にとって金字塔的な出来事であった。女王が屈服したのは、素肌の足を見られたことにある。ソロモンは女王を彼の宮殿に招くに当たって、床に川をつくれれば彼女が裳裾をたくし上げそれを渡るに違いないと読んだ。彼女はうっかりその手にはまった。実はそれは水晶で作ったもので、水は流れていなかった。二人の間に生まれた子供は初代のエチオピア王になったという伝説もある。

今でもイエメンの女性は、手足も顔も含め、からだ全体を黒い布で覆っている。素肌を見せる外国人女性は彼らにとって野蛮人である。世界で最も貧しい国のひとつではあるが、シバの女王の末裔たちは庶民でも気位が高く、乳香(古代エジプト、メソポタミアの神事に用いた)を焚いてお正月を過ごし、またその薫香のなかで自国が原産地であるコーヒーを喫飲する。

今の首都サナアは世界最古の町で、その市場は人でごったかえし、明らかに経済が回復中であることが分かる。12年前に油田が発見され、昨今ではマーリブとその南のアヤーズで日産5万tの原油が生産されている。サナアから東へ車で3時間のところにマーリブがある。そのハイウェーでは絶えずタンクローリーが西に向かう。テントと家

財道具とをラクダに積んで、草地を求めて移動するベドウィン(遊牧民)にとってこのハイウェーは、絶好の不満解消の目標となる。彼らは自己の草地を守るため、部族どうして同盟し武装しなければ軍隊や警察が駆けつけても手遅れになる。今や、彼らはラクダ数頭分の購買代金で日本製トラックを購入し、それにラクダと家財道具を乗せて移動する。そのため砂漠の方々にガソリンスタンドを設置せよと政府に要求しているが、町の定住者は、そんなことは、この広い砂漠では無理だという。ベドウィンの銃撃と武器密輸を防止するため、ハイウェーは陸軍の監視下にある。

マーリブへの往復にはカラシニコフ自動小銃で武装した兵士が護衛してくれ、神殿やダムの遺跡を見ることができた。現代世界のダムの欠陥は土砂が堆積することにあるが、このダムは毎年雨季に貯えた水を放水し切り36万人分の農作物の生産を行った。その輸出と乳香の仲介貿易により築いた巨万の富を背景に、シバの女王はユダヤのソロモン王との知恵比べに臨んだのであった。

(おおえ としみ 教養部教授)



北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.18 No.3 (通巻139号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011) 841-1161 本館内線 270-275・279 工学部内線 813・814 印刷所: ㈱アイワード